様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　６月２３日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2006～2008
課題番号：１８５２０５５０
研究課題名（和文）　敦煌・トルファン漢語文献の特性に関する研究

研究課題名（英文）　Research on the Character of Chinese Documents Discovered in Dunhuang and Turfan

研究代表者
土肥　義和（DOHI YOSHIKAZU）
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：１０１０４７４６

研究成果の概要：標記研究課題に関する研究成果は、次の（１）～（３）の通りである。（１）「サンクト・ペテルブルク東洋学研究所所蔵敦煌・トルファン出土漢語文献 microfilm 文献番号・コマ数対照仮目録」のデータベースを作成した。（２）旅順博物館との日中共同学術調査において、トルファン出土文書の史料的価値を明らかにし、成果を公刊した。（３）河南大学との共同調査において、宋都、開封と敦煌間における仏教文化交流関係をうかがう石刻資料を収集し、その「資料集」を作成した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	2,100,000	0	2,100,000
２００７年度	900,000	270,000	1,170,000
２００８年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	420,000	3,920,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：敦煌　トルファン　漢語文献　出土文書　石刻

１．研究開始当初の背景

平成 14 年（2002）に東洋文庫が、他国に先がけてロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルク分所から入手した内陸アジア出土文書の microfilm（全 363 リール、約 25 万齣）には、4・5 世紀から 15 世紀に及ぶコータン・サカ語、西夏語、ウイグル・ソグド語、漢語、チャガタイ・トルコ語、サンスクリット語、ペルシア語、アラビア語、満洲語、モンゴル語の 11 言語の文書が含まれている。ここに microfilm 化された文字資料の目録をデータベース化してそれを公開することは、わが国だけではなく、諸外国の研究機関や研究者の希求するところ切なるものがある。

２．研究の目的

上記 11 種の内陸アジア出土の文字資料のうち、本研究は、漢語資料について、旧来、中国の中央で編纂された史料を中心に進められてきた中国の内地及び内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を、現地で作成された生の漢語文書を分析・研究することによって、諸民族の歴史の実態を明らかにすることを主目的とする。そのために、本研究では、3 世

紀後半から 13・14 世紀に至る時代に作成された漢語文書がどのような特質をもっているかを、書誌学的、あるいは古文書学的に研究することによって、諸文書の外形的な特徴、即ち、様式を究明するとともに、漢族をはじめ内陸アジア諸民族の歴史・文化の本質を究明する。

３．研究の方法

本研究課題を遂行するために、ここでは次の（１）、（２）、（３）の学術調査・研究を実施した。

（１） ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルク分所所蔵内陸アジア出土の文字資料 microfilm（全 363 リール）のうち、漢語文献が記された 40 リール（第 266～第 277、第 279～第 286、第 292、第 334～第 337、第 349～第 363）を抽出し、各リールに付された文献番号とその齣数とを対照させた「microfilm 目録」のデータベース化を完成した。この結果、既刊の『俄蔵敦煌文献』（全 17 冊、図版集、約 1 万数 1 千点）に未収録の 300 余点の新たな漢語文献を目録に加えることができた。

（２）大連市・旅順博物館との日中共同資料調査において、同館所蔵のトルファン出土の 8 世紀の漢語文書 5 断簡が龍谷大学所蔵大谷文書及び橘瑞超文書と綴合することが証明され、これによって大谷探検隊将来のトルファン漢文文書の一部が 1910 年代の文書整理の過程で分離されたことが明らかになった。

（３）開封市・河南大学歴史文化学院との日中共同資料調査において、宋都、開封の四大勅額寺の１つ、天清寺の 10 世紀後半建立の繁塔（仏教磚塔）の内壁に現存する石刻資料（供養人題記・仏典題記等）と、敦煌莫高窟壁画に記された同時代の供養人題記等とを比較研究することによって、両地における仏教文化交流の実情を示す文字資料の収集を行った。そしてその成果は、「宋代繁塔石刻資料集（稿）」として、別途作成の『研究成果報告書』(2009 年 3 月）の中に収載した。

４．研究成果

（１）「サンクト・ペテルブルク東洋学研究所所蔵敦煌・トルファン出土漢語文献 microfilm 文献番号・コマ数対照仮目録」データベースの完成。

（２）遼寧省大連市の旅順博物館における出土文書調査の研究成果を、別途作成の『報告書』冊子に収録した。

（３）河南省開封市の繁塔と称される仏塔の石刻資料調査の成果を「資料集」とし、別途作成の『報告書』冊子に収録した。

（４）上記の（１）、（２）、（３）の研究成果をまとめるに際しては、東洋文庫で開催されている内陸アジア出土古文献研究会の月例会において数度の中間報告の発表を試み、関係分野の研究者の意見聴取や情報収集を行い、また下記の〔図書〕の区分に示した論文集に執筆した研究者とも密接に意見交換して、その成果の質的向上を図った。本研究においては特に連携研究者を設定していないが、『報告書』や論文集の執筆者は、本研究の遂行とこの分野の研究の進展において、意見や情報の一部を共有するという成果をあげた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４件）

①片山章雄「大谷文書・旅順博物館文書中の吐魯番出土霊芝雲型文書の一例」、『西北出土文献研究』第 7 号、61～66 頁、2009 年 3 月、査読有

②土肥義和「敦煌文書をめぐる堀敏一先生の思い出―付「「戊年六月十八日諸寺丁壮車牛役部（S.542v)」に見える敦煌寺戸の性格に関する覚書」―」『明大アジア史論集』第 12 号、1～13 頁、2008 年 9 月、査読有

③土肥義和「宋都、開封の繁塔について」『國學院雑誌』第 108 巻第 8 号、35～35 頁、2007 年 8 月、査読有

④片山章雄「旅順博物館所蔵の大谷探検隊将来吐魯番出土物価文書」『西北出土文献研究』第 4 号、73～78 頁、2007 年 2 月、査読有

〔学会発表〕（計　１件）

①土肥義和「武周天授三年（692）西州柳中県戸籍の復元と考察」、内陸アジア出土古文献研究会、2007 年 4 月 21 日、東洋文庫会議室

〔図書〕（計　１件）

①土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』、東洋文庫、xii+489 頁、2009 年 3 月

※研究代表者の編集にかかる上記論文集の刊行に際しては、上述のように執筆者との意見交換や情報交換を密にしており、本研究の延長の成果も含まれている。内容目次は以下の通り。

石塚晴通「漢文字体規範データベース（HNG）―敦煌写本の位置―」（1～10 頁）

王素「吐魯番新獲高昌郡文書的断代与研究―

以《新獲吐魯番出土文献》為中心」（11～25 頁）
同（鈴木桂訳）「吐魯番新出高昌郡文書の年代区分とその研究―『新獲吐魯番出土文献』を中心として―」（27～43 頁）
伊藤敏雄「楼蘭出土の魏晋期書信の書式をめぐって―上書きと冒頭部分を中心に―」（45～66 頁）
古瀬奈津子「敦煌書儀と「上表」文―日唐の表の比較をまじえて―」（67～82 頁）
岡野誠「新たに紹介された吐魯番・敦煌本『唐律』『律疏』断片―旅順博物館及び中国国家図書館所蔵資料を中心に―」（83～113 頁）
丸山裕美子「敦煌写本「月儀」「朋友書儀」と日本伝来『杜家立成雑書要略』―東アジアの月儀・書儀―」（115～135 頁）
池田温「敦煌写本偽造問題管見」（137～155 頁）
石見清裕「吐魯番出土墓表・墓誌の統計的分析」（157～182 頁）
關尾史郎「「五胡」時代、高昌郡文書の基礎的考察―兵曹関係文書群の検討を中心として―」（183～200 頁）
栄新江「吐魯番新出前秦建元二十年籍的淵源」（201～212 頁）
同（西村陽子訳）「吐魯番新出前秦建元二十年籍の淵源」（213～225 頁）
町田隆吉「麴氏高昌国時代寺院支出簿の基礎的考察」（227～249 頁）
大津透「吐魯番文書と律令制―唐代均田制を中心に―」（251～270 頁）
荒川正晴「唐代中央アジアにおける帖式文書の性格をめぐって」（271～291 頁）
氣賀澤保規「唐代西州府兵制再論―西州「衛士」の位置づけをめぐって―」（293～313 頁）
片山章雄「大谷探検隊将来吐魯番出土物価文書断片の数点の綴合について」（315～335 頁）
石田勇作「社文書研究再論」（337～363 頁）
張娜麗「吐魯番本『爾雅注』について」（365～389 頁）
西本照真「三階教写本研究の到達点と今後の課題」（391～403 頁）
伊藤美重子「敦煌写本「雑抄」に関する諸問題」（405～426 頁）
妹尾達彦「唐代長安の印刷文化―主に S.P.12 と S.P.6 をてがかりにして―」（427～446 頁）
土肥義和「曹氏帰義軍後期、敦煌管内仏教教団の写経事業記録の分析―「敦煌遺書」の性格を探って―」（447～488 頁）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕（計　３点）
【別途作成の報告書】
①土肥義和編『敦煌・トルファン漢語文献の特性に関する研究 研究成果報告書』、東洋文庫、ii＋104 頁、2009 年 3 月

※研究代表者の編集にかかる上記の研究成果報告書の作成に際しては、上述のように研究会参加者との意見交換や情報交換を密にしており、本研究の補助作業者の成果も含まれている。内容目次は以下の通り。

土肥義和「はしがき」（i～ii 頁）
無記名「研究概要」（1～4 頁）
片山章雄・王振芬・孫慧珍「旅順博物館所蔵文書と大谷文書その他の綴合」（6～10 頁、図版）
王振芬・孫慧珍・片山章雄「旅順博物館所蔵文書與大谷文書等的綴和」（図版、11～14 頁）
土肥義和「繁塔資料調査に寄せて」（15 頁）
速水大「繁塔概観」（16～18 頁）
片山章雄「繁塔の構造上の問題」（19～21 頁）
石野智大「繁塔の石刻資料」（22～23 頁）
石田勇作「繁塔に見える供養人題記の紹介―「一覧表」からの一例―」（24～31 頁）
十時淳一「繁塔の石経の資料的意義について」（32～33 頁）
土肥義和編「 宋代繁塔石刻資料集（稿）」（34～98 頁）
十時淳一・石野智大「「サンクト・ペテルブルク東洋学研究所所蔵漢語文献番号・コマ数対照仮目録」について」（99～104 頁）

【編集図書中の論文】
①土肥義和「曹氏帰義軍後期、敦煌管内仏教教団の写経事業記録の分析―「敦煌遺書」の性格を探って―」土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』、東洋文庫、447～488 頁、2009 年 3 月、査読有
②片山章雄「大谷探検隊将来吐魯番出土物価文書断片の数点の綴合について」土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』、東洋文庫、315～335 頁、2009 年 3 月、査読有

６．研究組織
(1)研究代表者
土肥　義和（DOHI YOSHIKAZU）
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：１０１０４７４６

(2)研究分担者

片山　章雄（KATAYAMA AKIO）
財団法人東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：１０２２４４５３

(3)連携研究者